

デジタル技術を使って文化財活用

中江藤樹・たかしまミュージアムでの活用

中江藤樹・たかしまミュージアムでは、来館された方に高島の多様な歴史や文化の魅力を体感していただき、展示資料の理解が深まるように解説映像を上映しています。

その中では、清水山城館を再現したCG（コンピュータグラフィックス）や、デジタル技術を駆使して作られた「動く江若鉄道」の映像が使われています。

●清水山城館のCG再現

清水山城の城主は、鎌倉期から当地域に割拠した近江源氏佐々木氏の一族である高島七頭の惣領家、佐々木越中氏とされています。築城された時期などは判明していませんが、元龜4年（1573）頃まで存続していたと考えられています。清水山城館のCGは、過去の調査記録や専門家の監修、有識者の助言を積み重ねて、当時の山城の姿を再現しています。



清水山城のCG

●デジタル技術を用いた映像

昭和2年（1927）に、江若鉄道が高島の地を初めて走った当時の写真が残っています。この写真からAI技術を用いて、当時の車両が力強く走る映像を生成しています。このほか、現在では行われていない祭礼行事のようすが録画された古いビデオテープ

映像の高画質化や、継体大王関係地でのドローン空撮映像を用いるなど、さまざまな手法を取り入れて映像を制作しています。

これからの文化財活用

中江藤樹・たかしまミュージアムでは、オープンに合わせてさまざまな資料を展示していますが、これは市内に残る膨大な資料のごく一部に

すぎません。

今後は、デジタル技術を活用して、現実では見ることができない姿を復元したり、データベース化によって資料の検索を容易にしたりしながら、文化財の有効活用と保存に努めていきたいと考えています。

※中江藤樹・たかしまミュージアムについて詳しくは、広報6月号特集1をご覧ください。

問 文化財課

☎（25）85559



江若鉄道のCG

編集
感覚

先日、6月1日にオープンした「中江藤樹・たかしまミュージアム」に行ってきました。今まで見ることがなかった資料がデジタル技術を有効活用し、展示されていました。高島市全体の貴重な文化財が見られるとともに、オープンに合わせ滋賀県から借りている貴重な埋蔵文化財が展示されています。皆さんも是非足を運んではいかがでしょうか。（T）